

D・田舎☆サマーフェス2025



肥田葉子さん



わ太鼓満月組



委員長あいさつ



子どもよさこいソーラン



発行
浮田地区コミュニティ会議
電話&FAX
0198-42-1681

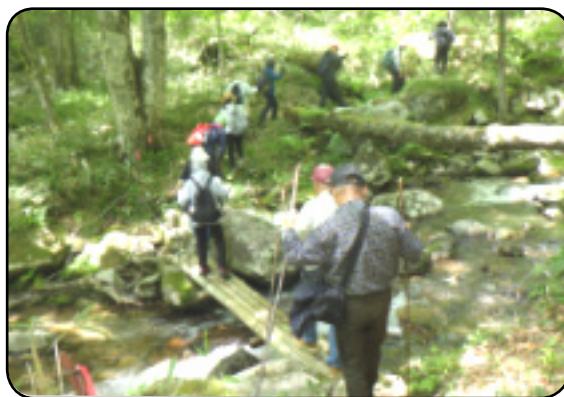
タイトル画説明

初夏の草地を明るくしてくれるレースのようなミズキの白い花。次々につぼみをつけるカレンデュラ(キンセンカ)は夏のにぎわい。つぼみかわいく、擬宝珠みたい。
絵・文(実)

8月9日
浮田の夏の定番
今年も盛り上がりました

お盆で帰省中の方も来場されて、久しぶりの再会を喜ぶ様子が多く見受けられました。皆さんのご意見を聞きながら今後も良い方向へと進めていきたいですね。
(実行委員長 千葉和弘)

「又一の滝」トレックキング紀行



木漏れ日で暑さが和らぐ山道をさらに登り、谷を見て丸太橋を渡ると、50分程で落差20m、一枚岩で出来た又一の滝に到着です。滝つぼや水しぶきに天然のクーラーといやしを感じ格別のランチタイムでした。初心者向けのコースで、「すぐくえがった」の声が出ていました。(辰)



エソハルゼミ



令和2年度からホシメネスカの方々に講師に迎え開催している星空観察会。8月3日に行われた今回のテーマは「自分で組み立てた望遠鏡で月を見る」でした。



猛暑日となった7月19日、浮田集会所講堂で竹灯り作りが行われました。当コミュニティ事務局長

竹灯りづくり教室

でもある藤井輝雄講師が用意して下さった孟宗竹を、各自、鋸を使って好みの長さに切る作業から行い、節を抜きました。その次は、思い思いに型紙や自作のデザインを組み合わせて、竹用ドリルで穴を開けていきました。



暑さを和らげてくれました。(多)

「月の模様やクレーターが見えた」

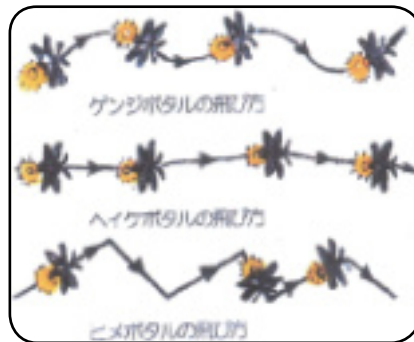
汚れや傷を付けないよう慎重に対物レンズをはめ込み、鏡筒は完成。倍率が異なる2種類のアイピースは、レンズを2枚ずつ入れて完成です。

次に「観察会以後も使い続けてもらいたい」との講師の意向から、見たいものにピントを合わせる練習を繰



り返し行いました。そしていよいよ外が暗くなった頃、望遠鏡で明るい月を見てみると、月の模様がよく見えたようで、皆さんに納得の笑みが見られました。「さすが！」と感じたのは講師がピントを合わせた望遠鏡を覗くと、クレーターのデコボコまでくつきり見えたこと。ぜひ練習して月鑑賞を楽しみたいですね。(多)

ホタル観察会

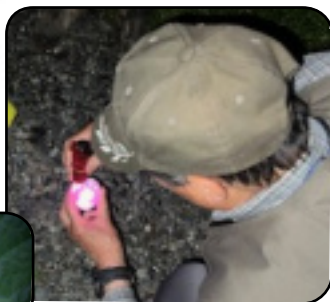
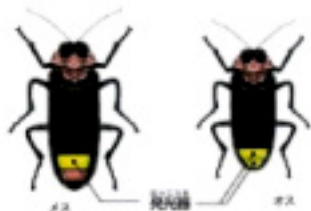


6月28日、似内功孝氏をお迎えし、ホタル観察会が行われました。当日は天候にも恵まれ絶好の観察会日和となりました。夜7時、22名の参加者が振興センターに集合。まだ明るさの残る中、似内氏のお話から始まりました。数々の興味深い話で知識を高め、いざ出発。最初はヘイケボタルが数多く生息する上浮田地内へ。完全に日が暮れ辺りが闇に包まれると、小さな光がふわふわと舞い始めました。時間が経つにつれ点滅する光が増し、神秘的な様に暗闇の中から参加者たちの感嘆の声が漏れ聞こえて来ま

した。

次にゲンジボタルを求めて中内地内のホタルの里へ。ここでも数多くのホタルが光を放ちながら舞う様子を観察することが出来ました。

この観察会を通じて、豊かな自然がもたらす感動を実感し、自然環境の大切さを再認識する貴重な機会となりました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。(美)



どっちかな?→

苔玉を作ろう



隣同士で出来栄を見せあいながら、小さな自然を手へのせ満足。風流感もあり苔玉作りを楽しめました。盆栽は手間がかかりますが、身近で気軽に作れ、室内向きのグリーンインテリアにもなります。

可愛いもふもふ苔玉を手にした皆さん、楽しく作れて嬉しそうでしたネ。

(二三)



浮田振興センターの裏山から採取した植物で『苔玉作り』を6月13日に行いました。天候に恵まれ、山の植物や苗木、そして必須の苔などを集め作り方の説明を聞きました。参加者は童心にかえり土団子ならぬ球体を作り上げ、苗木を植え付け、苔を張り合わせ形を整え丁寧に糸で縛り上げていくと、あーら!!丸い苔玉が完成しました。

ゆるゆると

カントリーヘッジ
(羊の生垣)

杉木立に囲まれた早池峰神社の境内にセミの声が響く6月中旬。「ヒグラシ?」とつぶやいた私に「エゾハルゼミ」と赤入れが入る。初めて聴くエゾハルゼミに耳を澄ませつつ、今年は未だヒグラシの声を聴いていないと気になった。

天候不順が続く。寒さからいきなり暑くなり猛暑虫が極端に少ないと感じるこの夏。毒沢でヒグラシの声を聴いたのは7月5日夕刻、一瞬で涼しさを感じた。雨は降らず、30度以上の猛暑続き、そんな日中でも雲が太陽を遮り、風が変わる。その機を逃さずカナカナカナ...とヒグラシの声。いつも目覚める朝は5時、既にアブラゼミやミンミンゼミの元氣よい声が満ちる。眠れぬ夜のまだ薄暗い4時、夜明けと共にヒグラシの声が響いた。そのままずっと眠りに入れるあさしい響き。ヒグラシのいる夏、ここに暮らす幸せを感じる。

(山本 実紀)

さなぶり研修

下浮田農家組合では毎年7月に公民館、中山間事業共催で「さなぶり研修」を行っています。

今年度は遠野市附馬牛町の野生鳥獣対策として整備した網設置を視察しました。

市役所担当者の説明では、

県内の鹿捕獲のうち20%が遠野市で、この10年で数も6倍に増えているそうです。当地域も他人事ではないと感じます。(賢)

地域の話題

毒沢農家組合の研修旅行が7月12日に行われました。

「道の駅もりおか渋民」など産直の視察ですが、参加した皆さんとの親睦を深めるお昼のひと時が一番の研修かもしれません。(浩)

浮田地区 芸農まつり 開催のご案内

今年は11月2日(日)に芸農まつりを開催します。軽トラ市や作品展示、ステージ発表を予定していますので、作品・出演・出店を募っています。みんなで楽しいお祭りにしましょう。(輝)



前回の様子
「和洋ミュージックセッション」

「結いの里便り」 編集委員研修

「馬っこ繋ぎ」と呼ばれる伝統行事が今も行われています。

この「馬っこ繋ぎ」は雄雌一組のワラで作った馬を神社や湧水、田んぼなど毎年6月15日に奉納されるものです。

久出内には杉や桂、サワラといった天然記念物の巨木が沢山あり、その下には神様を祀る社殿とワラ馬が全てに置かれていました。何事も継続することが難しい現代ですが、歴史を感じることが出来たと思います。

昼食後は笛



貫の滝に寄り、マイナスイオンを目一杯浴びて帰ってきました。(賢)



編集委員長

千田 浩志

編集長

山本 実紀

編集委員

山口 友恵

千葉 三恵

多田 辰雄

小田島賢志

渡辺 郁美

竹田美由紀

題字

千葉 稔

事務局

藤井 輝雄

小田島多賀子

(中内)
(下浮田)